

暗唱のすすめ 百人一首編⑨

四十一

こ ちょう な た
恋すてふ わが名はまだき 立ちにけり
ひとし おもイ
人知れずこそ 思ひそめしか

))
みぶのただみ
壬生忠見

四十二

ちぎ そで
契りきな かたみに袖を しばりつつ
すえ まつやま なみこ
末の松山 波越さじとは

))
きよはらのもとすけ
清原元輔

四十三

あ み こころ
逢ひ見ての のちの心にくらぶれば
むかし もの おもワ
昔は物を 思はざりけり

))
ごんちゅうなごんあつただ
権中納言敦忠

四十四

あウ た
逢ふことの 絶えてしなくば なかなか
ひと み うら
人をも身をも 恨みざらまし

))
ちゅうなごんあさただ
中納言朝忠

四十五

ワ ウ ひと おもオ
あはれとも いふべき人は 思ほえで
み ズ
身のいたづらになりぬべきかな

))
けんとくこう
謙徳公